

甲斐市立敷島中学校 自己評価書（前期）

平成26年 7月14日（月）作成

校長 新海 賢一

記述者 職名（教頭） 岸本 貴志

学校教育目標 「一人一人の個性を伸ばし、自ら学ぶ生徒の育成を図る」

- ・課題意識を持って「自ら学ぶ生徒」・・・・・・・・・・知
- ・豊かな感性と思いやりのある「心豊かな生徒」・・・・情
- ・何事にも全力をつくしてやり抜く「よく働く生徒」・・・意
- ・生命を尊重し、心身共に健康な「体を鍛える生徒」・・・体

学校経営方針 生徒一人一人の「生きる力の育成」へ向け

- ・学ぶ意欲を高める教育課程の編成
- ・個性を伸ばす教育の充実
- ・よりよい生き方を求める道徳教育の実践
- ・人権の尊重や福祉、国際感覚に満ちた生徒の育成
- ・生涯学習社会にふさわしい地域に開かれた学校づくり

1 全体評価

質問項目は全部で46項目(オリジナル項目を含む)である。すべての項目において最頻度がAまたはB評価であり(最頻度Aが27項目、Bが19項目)、比較的高い肯定率となっている。しかし、C評価とD評価の合計が10%を超える項目が若干あるなど更なる改善をしていく必要がある。

特に改善が必要な項目、継続が必要な項目を挙げてみると

① 学校教育目標・学校経営について

- ・「学校経営は人の和。そして自分が身を置く場所に誇りを持ち、責任を持つ」という校長の経営理念を全教職員が共有し、学校教育目標の実現に向け、PDCAサイクルに基づく学校運営を確実に行っていく。
- ・職員の健康管理も含め、働きやすい職場づくりにも配慮していく。

② 学校運営について

- ・防災、防犯、学校安全、情報セキュリティ等に対する危機管理意識をさらに高めていきたい。
- ・「報告・連絡・相談・確認」体制を継続し、教職員の縦・横の連携を密にしていくことで組織的な教育活動をさらに充実させていく。

③ 学習指導について

- ・「わかりやすい授業」「個に応じた授業」に向け、授業づくりや指導法において校内研究とも関連させながら、更なる工夫・改善をしていく必要がある。
- ・家庭学習の充実については課題があり、個別指導や集団指導を今後も継続していくとともに、家庭との連携を一層深めていく必要がある。
- ・生徒の学習に関するアンケートを実施し、学意欲を高める学習指導の充実と家庭との連携を図った学習習慣の形成につなげていきたい。

④ 生徒指導について	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会や生徒指導部会が組織として機能し、情報の共有、すばやい対応ができているので今後も継続する。 ・課題を抱えている生徒や家庭があり、生徒や保護者に寄り添いながら粘り強く指導を継続していく。 ・進路指導を含めたキャリア教育に対する教師の意識を更に高めていく必要がある。
⑤ 地域との連携について	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々は学校に対して協力的である。地域の人材の活用等、地域や保護者との連携を密にし、地域の教育力を最大限に生かしていくことが必要である。 ・保護者や地域に対し、学校からの情報発信を積極的に行うとともに、地域の声を反映させる取り組みをしていく必要がある。
⑥ 学校の特色に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特色として行っている教育活動に対し、マンネリ化に陥らないよう常に新鮮な気持ちで生徒の実態に合わせた取り組みをしなければならない。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○学校教育目標や校長の経営方針、経営理念に基づいた教育実践が全般的に行われている。 ○どの項目も比較的高い肯定率を示しているが、PDCAサイクルに基づいた教育活動および職員の健康管理や福利厚生に配慮した職場づくりについては、更なる取り組みを進めていく。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価、学校関係者評価等を活用し、教育目標実現に向けて学校運営を工夫・改善していく。 ・健康で笑顔で生徒に接するためにも、協力体制、支援体制、相談体制を充実させる。無理せず気軽に休めるよう、補充などの職場体制をつくっていく。

II 学校運営について

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○教育活動が教職員間の信頼関係に基づく連携・協力体制の中で組織的に行われている。 ○職員会議での確認事項が、それぞれの分掌で実行され、円滑に機能している。 △危機管理に対する理解がやや低く、危機管理意識の高揚を図る必要がある。 △一部校内研究に対する研究意識の低さが見られる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・防災計画や危機管理マニュアルは年度初めに職員で確認しているが、年度初めだけでなく随時話題にするとともに訓練を実施し周知徹底を図っていく。危機管理に対するPDCAサイクルを機能させる。 ・校内研究は学校運営の骨格に関わるものであるから、全員が高い意識を持って主体的に関わるよう指導していく。研究授業だけでなく、お互いに気軽に授業参観することを通して自己の授業改善ができるような雰囲気をつくる。

Ⅲ 学習指導について（生徒用アンケート等も含めて）	
達成状況	<p>○学習の基盤である民主的な学級づくりについては、肯定的回答が多い。</p> <p>○基礎基本を重視した授業が行われている。</p> <p>△生徒一人一人の学習の躓きを早期に発見し、個に応じた授業を一層進めていく必要がある。</p> <p>△習得・活用・探究を積極的に取り入れた授業づくり，授業改善を積極的に行い，家庭学習を含め，生徒が主体的に学ぶ力をさらに育てていく必要がある。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に関する生徒の情報交換を積極的に行い，様々な視点から個に対応できるようにする。また，生徒の質問や要望を出しやすい雰囲気をつくったり，方法を工夫する。 ・わからないところを放課後に聞きに行けるような時間を確保するなどの体制づくりをする。 ・校内研究に一人一人の教員が主体的に関わり，授業改善に積極的に取り組む。 ・学力把握調査の結果を分析し，更なる基礎・基本の定着に努めていく。 ・家庭学習の指導は継続的に取り組んでいる事項であるが，継続して取り組むことの意義や学び方等について個別指導や集団指導を粘り強く続ける。また，わかる喜びが学習意欲換気につながるという観点からも授業改善に取り組む。
Ⅳ 生徒指導について（生徒用アンケート等も含めて）	
達成状況	<p>○生徒指導上の情報や課題を全職員が共有し，迅速かつ適切に対応できている。</p> <p>○「報告・連絡・相談・確認」が適切に行われ，保護者や関係機関との連携が密に行われている。</p> <p>○いじめ・不登校問題については未然防止に努め，早期発見・早期解決のため学校をあげて取り組んでいる。</p> <p>△「困ったことがあったら相談できる先生がいる」の割合が市全体から見ても低い。</p> <p>△様々な要因で課題を抱える生徒の指導を継続する。</p> <p>△生き方教育のさらなる充実を図る。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒とのコミュニケーションを通して信頼関係をさらに深める。 ・生徒の生活や学習の様子についてアンテナを高くし，生徒理解をさらに深める。 ・生徒のちょっとした変化に気づける教師の目をもてるよう努力をし，積極的な声かけを通して問題の芽が小さいうちに解決できるようにする。 ・課題を抱えている生徒に対しては，保護者と連携を密にし，粘り強く働きかけていきたい。 ・生徒が前向きに傾注できる授業や行事の創造と研究を行う。 ・生き方教育では，体系的，計画的な取り組みを通してキャリア育成や進路指導を行っていく。特に体験活動との関連を重視していく。

V 地域との連携について	
達成状況	<p>○PTA行事など、保護者や地域の方々は学校に非常に協力的で肯定的意見が多い。</p> <p>△地域人材や施設を活用については、昨年より肯定率は高まっているがうまく教育活動に生かしきれていない面がある。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのものに加え、教育課程全体を、地域人材活用というフィルターで見直し、可能性や方法を再検討する。 ・学校からの情報発信を積極的に行い、また地域からの情報を積極的に得る努力をする。このような連携をしながら、地域と結びついた学校を目指していきたい。
VI 学校の特色に関して	
達成状況	<p>○非常に高い肯定率である。鍛練、有価物回収、合唱活動など、保護者や地域に根付いており、学校の取り組みに対する理解が得られている。</p> <p>○保護者や地域住民を巻き込みながら（協力を得ながら）活動することに大きな意義を感じている。</p>
3 まとめ <成果> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に見て本校の教育は、学校教育目標や校長の経営方針、経営理念を踏まえて実践されているものと解することができる。また、教員の相互理解、職務上の「報告・連絡・相談・確認」機能、協力体制が整っており、組織的な教育活動が行われている。今後も維持向上させていきたい。 ・学級づくりでは、Q-Uの分析結果等を参考にしながら一人一人の教員が創意工夫をし、一生懸命取り組んでいる。今後も生徒にとって居場所となる心安らぐ学級づくりを進めていきたい。 ・生徒指導については、人間関係の構築を基本に深い生徒理解に努めている。また、組織や会議を生かして情報を共有し、統一性のある指導をしていきたい。焦らず、あきらめず、粘り強い指導を行いたい。 <課題> <ul style="list-style-type: none"> ・「わかる授業」の創造のため、校内研究を中心とした授業改善に積極的に取り組んでいきい。また、若手もベテランも同僚から学ぶという意識を持ち続けたい。 ・生徒が心身共に健康な学校生活を送るには、まず我々職員が心身ともに健康な状態でなければならない。多忙のなかにもリフレッシュしながら教育活動をすすめていきたい。 ・教員の本務たる学級づくりや授業の工夫改善については相当の努力をしている。しかし、それらが独りよがりになってはいけない。そのためにも職員会議や校内研に意識を持って主体的に臨まなければならない。全員が積極的に関われるようにしていきたい。 	